



# 瀬戸小だより

ふれ合う 認め合う 共に学ぶ 笑顔あふれる瀬戸ヶ谷小学校

mail:y3setoga@edu.city.yokohama.jp

学校だより 11月号  
令和5年10月31日  
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校  
校長 松永 淳子  
TEL 713-8336 FAX 713-9749

瀬戸ヶ谷小学校

検索

## 様々な気持ちと思いの中でのスポーツフェスティバル

校長 松永 淳子

朝の陽光に照らされ、すすきの穂が光り輝き、登校する子どもたちを出迎えてくれています。今年も校庭のマテバシイの木にどんぐりの実が実ったり、図書室前の柿の実がオレンジに色づいたりしました。秋の深まりを感じ、心地よい風を受けながら登校してくる子どもたちです。

10月に入り「ソーラン、ソーラン」や「ソイヤツ」という掛け声が、運動場から校長室まで届くようになりました。「p」「ff」この二つは、ご存知のように音楽用語で、強弱を表すものです。前者は弱く、後者はとても強くという意味になります。練習が始まった頃そのかけ声は「p」、練習が佳境に入る頃には「ff」に変化していました。かけ声の強弱は声の大きさの変化を意味するものだけではありません。やる気、願い、思い、自信などがかけ声の大きさに比例して変化したものなのだと感じるシーンがありましたので、ご紹介いたします。ある日、かけ声に惹かれ中学年の「ダンス」の練習を見ていた時のことです。突然、音楽がぶつりと途絶えたのです。気迫のある練習風景だっただけに「残念。ここで途絶えてしまうのか。」と思ったのも束の間、誰一人踊るのをやめる子どもはいなかったのです。（もちろん踊りを続ける指示などどこからも聞こえてきませんでした。）それどころか「ソイヤツ」のかけ声は乱れることなく、一つのハーモニーとなり規則正しいリズムを刻みながら聞こえてきました。そしてその掛け声に合わせて踊っていたのです。その動きからメロディーさえ聞こえてくるようでした。踊り終わった時の子どもたちの表情は、凛々しく頼もしく見えました。ここまでの練習の中で、子どもたちの意欲が徐々に高まってきたことや学級や学年の友達と素敵な時間を共有してきたことが伝わってきました。これは、中学年の子どもたちのことだけではなく、低学年や高学年の子どもたちも、互いの動きを見合い、学び合い切磋琢磨している様子が練習風景から伝わってきました。

また、高学年の子どもたちの意識の大きさを様々な場面で感じました。休み時間の応援団の練習では、2時間目の学習が終わるやいなや練習に励んでいました。体育館から響き渡る子どもたちの声や太鼓の音、前日準備のきびきびとした動きなど当日まで責任をもち取り組みリーダーシップを発揮していました。そして何よりもスポーツフェスティバル当日の「ソーラン節」の気迫溢れる演技、瀬戸ヶ谷小学校をリードしてきた高学年の姿そのものでした。特に6年生は小学校生活最後のスポーツフェスティバル、その思いを力強く表現している様が全身に満ち溢れていました。見ている人の心にその思いが伝わってきました。

残念ながら当日参加することができなかった子どもたち。悔しく辛い気持ちを抱えていたことでしょう。ここまでの努力は必ず、他の場面でその力を発揮する時があるはずです。そのくらい一人ひとりが充実感をもって過ごしてきたことが分かる練習時間でした。紙面をお借りしてその努力を称えたいと思います。

保護者の皆様、ここまで子どもたちを支えていただき感謝申し上げます。「お家でダンスの練習したよ。」「アドバイスをしてもらって、やる気がでたんだ。」などご家庭で話題にさせていただきサポートしていただいたおかげで、スポーツフェスティバルのスローガン通り、一人ひとりが「にじいろ」に輝くスポーツフェスティバルとなりました。当日まで熱い声援を送り続けていただき、素敵な思い出を心に残すことができました。ありがとうございました。

地域の皆様、練習から当日までたいへんお騒がせいたしました。また、スポーツフェスティバル実施2日前から体調を壊している子どもたちが増え、当日は感染予防対策を行っての実施となりました。運営や進行を変更しましたので、ご来校いただいた皆様にはご心配ご迷惑をおかけしました。多くの方々に支えられて実施させていただくことができました。様々なことにご理解ご協力いただいたことについて、この場をお借りしてお詫び申し上げますと共に御礼申し上げます。